



# 南条っ子

## 南条小学校だより

教育目標 ともに学び、豊かな心で未来を切り拓く子の育成

南条っ子は 進んで学ぶ子

思いやりのある子

力いっぱいやりぬく子

令和7年1月20日発行

第8号



### ○2025年、本年もよろしくお願ひいたします

1月8日(水)は、冬季休業を経て、南条小学校に久しぶりに子どもたちの明るい声が響きました。12月23日は、インフルエンザをはじめとする感染症で、多くの欠席者(出席停止を含む)が出た中での2学期終業式になりました。それだけに、新しい年、新学期の始まりをたくさんの南条っ子と元気に迎えられたことはうれしい限りです。



今年(みどし)は巳年(へび年)にあたります。今年12歳になる2013年(としおとこ としおんな) (平成25年)生まれの5年生、6年生を「年男・年女」と言い、その人たちにとって縁起の良い年になると言われています。



また、へびは成長の過程で脱皮を繰り返すことから、「成長」「復活」「再生」などに良い年とも言われます。へびに遭遇すると私たちは驚き、その姿や生態から少し怖いというイメージを抱きがちですが、「神様のお使い」とも言われるように、良い意味に捉え、自分の歩みを振り返り、正しながら目標を達成する年にしたいものです。

さて、学校の3学期はとても短いです。来たる4月には一つ学年が上がります。6年生のみなさんは、中学校への進学を控えています。今年度初めの1学期に立てた目標の姿に近づいていますか。胸を張って進級・進学ができるように、「今」を、「今日」を大事に頑張りましょう。

### ○「冬ならではの…」の行事や生活を楽しみましょう!

まとまった雪が降り、生活には多少の不便さがでていますが、冬にしかできないことを楽しむ貴重な時期でもあります。



低学年では、グラウンドや河川敷での雪遊びが予定されています。また、4年生は22日(水)に今庄365スキー場でスキー教室を実施する予定です。北陸では降雪や寒さなどマイナスイメージが強い冬ですが、この時期にしかできない楽しい遊びやスポーツもあります。自然の厳しさとともにその美しさやすばらしさを肌で感じる機会にもなるのではないのでしょうか。



### ○「JRCオンライン語り部ライブ2024」に参加(3~6年生)

福井県では、すべての市町立小・中学校が「青少年赤十字(JRC)」に加盟しています。青少年赤十字は、「人の痛みがわかり、自らの意思・判断力で行動できる思いやりのある青少年の育成」を目的とした全国組織です。今年度、本校は、日本赤十字宮城県支部が主催している事業に参加しています。東日本大震災から14年が経とうとしている中、子どもたちに被災地の想いをつなぎ、自分の命をしっかりと守ることができるよう、語り部さんの生の声をライブ配信により視聴するものです。

14日(火)には、4年生が参加しました。震災当時、小学校入学を控えたお子さんを亡くされたお母さんから紙芝居「あいりちゃんからの命のメッセージ」を読んでもらいました。あいりちゃんが生きていれば、今年20歳を迎えるということで、福井新聞(1月12日)にも「亡き娘、描かれた振り袖姿」という見出しで記事になっていました。また、15日(水)には5年生が参加し、中学1年当時、避難指示によって当たり前で暮らしていた家、遊んでいた友だち、学校や町とも別れなければならなかった方の体験談をうかがいました。両日とも、児童は真剣に耳を傾け、生きていることの素晴らしさや日常があることの幸せを実感していました。災害は遠い国でおこった昔の出来事ではありません。自分事としてとらえ、備える意識を高くもちたいものです。



27日(月)には3年生、28日(火)には6年生が参加する予定です。

### ○「なるほど!」「わかった!」「できた!」ワクワクする学びを

授業中の児童の様子を見ていると、考えたり悩んだり、迷ったり、時には友だちと意見が合わなかったりして時間をかけて話し合っている姿を目にします。それは子どもたちにとってはとても大切で、良い学びの時間です。授業者の教員はあえてそのような場面を設定したり、子どもたちに問いを投げかけたりして学びを引き出したり深めたりする工夫をしています。



さて、先日、教員向けに行われた研修において「小さな成功体験の積み重ねが学ぶ喜び、生きる喜びにつながる」「小学生の頃に体験活動(自然・社会・文化的)や読書・手伝いを多くしていた子は高校生以降に自尊感情(自分に対して肯定的、自分に満足しているなど)が高くなる」などの話を伺いました。子どもの好奇心に働きかけ、子ども自身が楽しさや喜びを実感できる環境を整えたいものです。

冷たい雪が吹きつける中、寒さに負けず、南条っ子が元気に登校している姿を見ると、たくましさを感じます。家庭の送り出し、地域の見守りのお陰だと実感しています。

ここ南条では、昔から家族や地域の方々が互いを思いやり、協力しながら厳しい冬を乗り越えてきたのではないのでしょうか。大雪の日に大人が先に歩いてやっつけてもらった細い一本道。そこを譲り合って通ったこと、「お先にどうぞ」「ありがとう」「気をつけて」…。温かなやりとりが子どもたちの心を育てていました。時代は変わっても、変わらない真心をいつもありがとうございます。



